

マリンガ市で感じたブラジルとの心の絆

◆令和元年度 第28回加古川市青年海外派遣団 報告書◆



公益財団法人 加古川市国際交流協会

Kakogawa International Association

目 次

新しい風を期待して

(公財) 加古川市国際交流協会理事長

岡田 康裕 ————— 1

青年海外派遣

団員プロフィール ————— 2

派遣団日程表 ————— 3

事前研修 ————— 4

結団式、事後研修、帰国報告会 ————— 5

団員レポート ————— 6

派遣研修の記録 ————— 1 2

新しい風を期待して

近年、情報通信技術の著しい進歩にともない、私たちは世界各地の情報を容易に得ることができ、世界を身近に感じることができるようになりました。

また、訪日外国人数も10年前に比べて4倍近くに激増し、加古川市内でも在住外国人の数は増加しており、外国人を目にする機会が増えてきました。

このようななか、加古川市では、昭和48年、ブラジル・マリンガ市との姉妹都市提携を契機に、以降「地域に根ざした国際交流」を目指して、青少年の海外相互派遣をはじめ、在住外国人との交流など各種の事業を実施してまいりました。

加古川市青年海外派遣事業は、姉妹都市等での交流を通じて国際的視野を持ち、国際親善に貢献できる行動力のある国際人を育成することを目的として実施しており、平成4年に第1回目の派遣団をブラジル・マリンガ市に派遣して以来、毎年欠かすことなく派遣を続けています。28回目の派遣となる今回も3名の青年を派遣し、相互理解や友好親善を深めてまいりました。

本年は姉妹都市マリンガ市において、ホームステイをはじめ各種交流事業を展開したほか、来年2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて加古川市で事前合宿を実施することが計画されているブラジルパラバレーボール協会等への表敬訪問、交流事業への参加を目的として実施し、大変中身の濃い13日間の派遣事業となりました。

今後、この派遣事業で得た貴重な体験を生かし、本市の国際交流の進展に末長く活躍されることを期待いたしております。

結びになりますが、この青年海外派遣にあたってご理解、ご協力を賜りました関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和元年12月

公益財団法人 加古川市国際交流協会

理事長 岡 田 康 裕

団員プロフィール



多田 紗弓

TADA SAYUMI



難波 しずく

NAMBA SHIZUKU



吉谷 まどか

YOSHITANI MADOKA

団長

貴傳名 至康

KIDENA YOSHIYASU

(公財) 加古川市国際交流協会事務局長

引率

山本 佳

YAMAMOTO YOSHI

(公財) 加古川市国際交流協会事務員

派遣団日程表

月日（曜）	場所	交通機関	行程	宿泊
令和元年 8月4日 （日）	加古川発 関西空港着	エミレーツ航空	加古川市国際交流センター出発	機中泊
8月5日 （月）	ドバイ空港着 ドバイ空港発 サンパウロ空港着	エミレーツ航空 専用車		サンパウロ泊
8月6日 （火）	サンパウロ空港発 アラカジュ空港着	ゴール航空	サンパウロ市内視察 （日本人移民史料館、東洋人街など） ブラジルパラバレーボール協会表敬訪問	アラカジュ泊
8月7日 （水）	アラカジュ		パラバレーボール関係団体・機関訪問・交流 アラカジュ市内見学	アラカジュ泊
8月8日 （木）	アラカジュ空港発 経由：リオデジャネイロ クリチバ マリンガ空港着		マリンガ空港でホストファミリー等と対面、移動 各ホストファミリー宅へ移動 ホストファミリーとのプログラム	ホームステイ（マリンガ）
8月9日 （金）	マリンガ		サンフランシスコ・ザビエル学校訪問・視察 ウニセズマール大学訪問・視察 加古川ーマリンガ外国語センター訪問・視察 マリンガ市議会表敬訪問 マリンガ市長表敬訪問 パラナ州老人福祉和順会訪問・視察 歓迎夕食会（日本文化祭会場にて） ホストファミリーとのプログラム	ホームステイ（マリンガ）
8月10日 （土）	マリンガ		マリンガ日本庭園訪問・視察 駒込農場訪問・視察 ホストファミリーとのプログラム	ホームステイ（マリンガ）
8月11日 （日）	マリンガ		ホストファミリーとのプログラム お別れパーティ	ホームステイ（マリンガ）
8月12日 （月）	マリンガ発 イグアス着	乗用車2台 専用車	マリンガ市民とともにイグアスまで イグアスの滝（ブラジル側）見学	イグアス泊
8月13日 （火）	イグアス空港発 リオデジャネイロ空港着	専用車 ゴール航空 専用車	イグアスの滝（アルゼンチン側）見学	リオデジャネイロ泊
8月14日 （水）	リオデジャネイロ	専用車	リオデジャネイロ市内見学 （コルコバードの丘、砂糖パンの丘など）	機中泊
8月15日 （木）	リオデジャネイロ空港発	エミレーツ航空		機中泊
8月16日 （金）	ドバイ空港発 関西空港着 加古川着	エミレーツ航空	加古川市国際交流センター到着	

事前研修

選考会で選ばれた3名の派遣生は、加古川市の代表としてマリンガ市等を訪問することの認識を深めるとともに、ブラジルやマリンガ市の歴史と文化を理解することを目的に事前研修を実施しました。

ポルトガル語研修では、第1回目の青年海外派遣生である胡重尚子氏を招いて、あいさつや家庭内での基本的な会話など、ポルトガル語の基礎を学習しました。

また、神戸市にある、海外移住と文化の交流センターを訪問し、ブラジルに根付く日系人の移住の歴史などを学びました。

派遣生は、この度の派遣事業を通して学びたいことを明確にし、各自がテーマを持って研修に臨みました。

事前研修日程

実施日		内 容	場 所
第1回	6月29日 (土)	オリエンテーション 自己紹介 先輩と語ろう	加古川市国際交流センター
第2回	7月6日 (土)	加古川市について 訪問地研究発表 ポルトガル語研修	加古川市国際交流センター
第3回	7月27日 (土)	自己研修テーマ発表 交歓プログラムの練習 ブラジル移民の歴史について	神戸市青少年会館 海外移住と文化の交流センター
第4回	8月3日 (土)	結団式	加古川市国際交流センター



自己研修テーマについての研修

結団式

8月3日（土）国際交流センターにて、結団式を実施しました。加古川市長や市議会議長から激励の言葉をいただき、加古川市を代表して派遣されることへの責任を改めて感じました。また、リーダーの多田さんが派遣にかかる意気込みを力強く宣誓しました。

国際ソロプチミスト加古川の皆さんより、現地で使用するショルダーバッグをいただきました。



事後研修

9月1日（日）国際交流センターにて事後研修を実施しました。

現地での経験を今後どのように生かしたいかなどについて、意見を交わしました。「もう一度マリンガ市の温かい人々と交流したい。」と語るとともに、「マリンガ市の方々が築いてきた日系人の文化や伝統を実感することができた。」「派遣事業を通して何事にも挑戦してみることの大切さを学んだ。」などの感想を述べていました。また、「将来を考える時期であったからこそ、派遣事業で初めて経験したことや異文化に触れたことがこれからの自分の糧になると思う。」「ぜひ他の方にも姉妹都市交流を体験してほしい。」との意見もありました。



帰国報告会

11月3日（日）、国際交流セミナーのプログラム第1部として青年・中学生海外派遣団の合同帰国報告会を実施しました。それぞれの派遣生から、現地での経験や学んだこと、これから取り組んでいきたいことなどを岡田市長をはじめ関係者の皆様に報告しました。

父に「ブラジルに行ってみるか?」と言われたのがきっかけで青年海外派遣事業を知りました。マリンガ市が加古川市の姉妹都市だということは知りませんでした。私は大学で語学を学んでいることもあり、短期語学留学などを通してもっと多くの国を自分の目で見てみたいと思っていたので迷わず参加を決めました。ブラジルはサッカーが強い国というイメージが強く、日本の反対側にある国ということとどんな国なのか全く想像ができなかったのも、最初はとてもワクワクしていました。しかし出発が近づくにつれ、食事は口に合うのか、治安は大丈夫なのかといった不安が大きくなっていきました。海外へ行くのは今回で5回目でしたが、24時間のフライトは初めてで、身体にはとてもしんどかったです。でも、偶然機内でブラジルの有名なスポーツ選手の方々と会うことができ、写真を撮ってもらったり話をしたりしたことで、ブラジルの人達のフレンドリーな人柄に触れることができ、ブラジルがとても楽しみになりました。



ブラジル到着後は、サンパウロとアラカジュを訪問した後にマリンガに行くというとてもハードなスケジュールでしたが、それぞれの土地でしかできない貴重な体験をさせていただきました。アラカジュからマリンガへ向かう際、飛行機が5時間遅れ、到着が深夜になったにも関わらず、大勢の方々が私達を温かく迎えてくれました。マリンガでは初日から移動が多く、ハードなスケジュールでしたが、目にするものや口にするものは全てが初めてで、自分の世界がまた一つ広がったと感じました。



また、車で移動する際に、レストランや街の至る所で「Kakogawa」という文字を目にして、とても不思議な感覚でした。マリンガで最も印象に残っていることは、日本語学校訪問です。日本語を勉強するだけでなく、日本の伝統と文化を非常に大切に思ってくれている子供達が一生懸命に日本語の劇や

歌を披露してくれて、その姿に胸がいっぱいになり、涙が溢れました。私たち日本人も自分たちの「伝統と文化」を大切にしなければいけないと気づかされました。今後、マリンガを訪れることがあれば、また子供達に会いたいに行きたいと思います。



楽しみにしていたホームステイでは、加古川市の観光大使で元Jリーガーの三都主さんのお宅にお世話になりました。三都主アレクサンドロさん一家は6人家族ですが、偶然にも私のホームステイ期間と日本からサッカー留学に来ている男の子達のホームステイ期間が重なっており、最初はお互いにとっても緊張していましたが、話をするうちに緊張がほぐれていき、家の中は毎日とても賑やかでした。

最終日のフリータイムには朝から市場に連れて行っていただきました。搾りたての新鮮なオレンジジュースや、初めて食べた熱々のパステウは本当に美味しかったです。その後、私がサッカー好きだということもあり、地元のサッカースタジアムにも連れて行ってくださいました。残念ながらスタジアムの中は見学できませんでしたが、ホストファミリー全員とスタジアム横でダンボールを使って芝滑りをしました。滑り下りる途中に大きな穴が開いていて全員がそこにはまってしまい、泥だらけになったのも良い思い出です。また、4人の子供達は日本語を習っているため日本語を話せるのですが、標準語を話すので私の関西弁が通じず「ほんまや」「なんで？」と言うと面白がって真似る姿がとても可愛かったです。ホームステイでの4泊5日は本当に短く、あっという間でした。温かく迎え入れて下さった三都主さん一家の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。加古川にも行ってみたいと話されていたので、その際は私が加古川を案内できたらと思います。今回、青年海外派遣に参加したことで、日本とブラジル、加古川市とマリンガ市の深い関わりを学ぶことができ、生まれ育った加古川についても知る良い機会になりました。この経験を通して、自分の目で見て感じることの大切さに改めて気づき、海外で働きたいという気持ちがますます強くなりました。そのために、語学はもちろん世界の歴史や文化を学び、コミュニケーション能力も向上させていきたいです。

最後に、加古川市国際交流協会の皆様、ブラジルでお世話になった皆様に感謝するとともに、加古川市とマリンガ市の交流のさらなる発展を心からお祈りいたします。貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



難波 しずく

NAMBA SHIZUKU

私は両親から「ブラジルに行かないか？」と声を掛けられ、青年海外派遣事業のことを知りました。これまでブラジルに行こうなんて考えたこともなかったので正直驚きましたが、もともと海外が好きでいろいろな国に行ってみたいと思っていたことと、「今後の人生で地球の真反対にあるブラジルなんて行けるかどうか分からないから行ってみたら？」という家族の言葉に後押しされ、応募を決めました。2週間でサンパウロ、アラカジュ、マリンガ、イグアス、リオデジャネイロを訪れましたが、日本の22.5倍の面積を持つブラジルでは、気温、街の雰囲気、治安、料理など、場所によってかなり違いがあり、ブラジルのいろいろな面を知ることができました。



その中で最も印象に残ったのはマリンガでのホームステイでした。私のホームステイ先では、19歳の兄ルイスだけが英語を話すことができ、弟と妹は簡単な日常会話のみ、父と母は英語を全く話せませんでした。基本的にルイスに英語とポルトガル語の通訳をもらい、弟と妹とは簡単な英語と、Google翻訳も使いながらコミュニケーションをとっていました。ホストファミリーとの空港での初対面では、“Hope great moments together”、“We are very happy to be with you!!!” などと書かれた紙を持って笑顔で出迎えてくれました。部屋に入ると妹のアンナ手書きの“Shizuku I love you”と書かれた画用紙が飾られ、プレゼントも置かれていました。「あなたは今日から私たちの家族だから。」と声をかけてくれ、初日から歓迎の気持ちが伝わってきて安心しました。ホームステイ期間中アンナがずっと横に寄ってきて手をつないだり、抱きついたり、くっつきにしてくれたのが最高にかわいくてうれしかったです。2日目以降も、弟と妹それぞれがプレゼントをくれ、私だけでなく私の家族の分もたくさんお土産をもらい、私が来るからと大



きなケーキを用意してくれるなど、様々な形で愛情を伝えてきてくれました。以前ルイスはマリンガ市青年海外派遣事業で加古川市に来たことがあり、その際日本人から手厚いおもてなしを受けたから、自分たちもできる限りのおもてなしをしたいと言ってくれました。日本人のおもてなし精神があったからこそ今回私にもたくさんの

おもてなしをしてくれて、日本とブラジルが心でつながっていることを実感しました。



歓迎夕食会が行われた日本文化祭の会場では、ルイスの友達の子供がブラジル人がいて、英語で日本の食べ物や観光地などについての話をたくさんしました。日本に行ったことがある人や、今年行く予定だという人もいて、日本に興味を持ってくれている人が地球の裏側にたくさんいることが少し不思議な感覚でした。ブラジルで日本食、日本的な建築物、日本語を話せる方などにたくさん出会い、地球の反対側にいながらも日本のことをたくさん

感じる事ができた2週間でした。

ホストファミリーと過ごす最後の日には、ショッピングモール2軒、スーパー、大きな公園に連れて行ってくれました。公園のフリーマーケットでは日系2世の方が日本語で話しかけてくれて、「マリンガのどこが一番好きですか？」と聞かれたので、私はマリンガの「人」が一番好きだと答えました。日系の方が多いマリンガでは市内のあらゆる場所に日本文化が見受けられ、日系か否かに関わらずみんなが日本文化を受け入れ、日本人を歓迎してくれている温かい雰囲気を感じることができました。そのためマリンガはとても居心地よく感じました。私は今回で海外に行くのは8か国目でしたが、現地の方にこれほど温かく受け入れてもらったのは今回が初めてで、これは昭和48年から続く加古川市とマリンガ市の姉妹都市提携や今年で28回目を迎える青年海外派遣事業の成果の表れなのだろうと思いました。

日本に帰ってから家でブラジルの思い出話をしていると、父と兄が「ブラジル行きたいなあ。」と言っていて、自分がきっかけとなってブラジルに興味を持つ人を増やすことができうれしかったです。今後も加古川市とマリンガ市の友好関係が続き、心のつながりが強くなっていくことを願っています。今回の派遣で、日本とブラジルの交流の歴史や知識だけではなく、現地を訪ねなければわからない日本人とブラジル人の心の距離の近さや人柄などを身をもって感じる事ができ、大変貴重な経験をさせていただきました。第28回加古川市青年海外派遣事業を通じてお世話になった皆様、本当にありがとうございました。



吉谷 まどか

YOSHITANI MADOKA



昨年、日本語の学習を希望する外国人の方が急増し、加古川市国際交流協会で日本語指導ボランティアが不足していることを知り、日本語指導ボランティアの講師の登録をしました。そして私は現在も日本語指導ボランティアとして、来日されている外国人の方に日本語を指導しています。今回、第28回加古川市青年海外派遣事業に参加させていただいたのは、日系人を含む多国籍国家としても有名なブラジルでの『日本語指導』がどのような

ものなのかを学び、日本での外国人の方への『日本語指導』に活かせることがあるのではないかと考えたからです。

ブラジルは、ポルトガル語が母国語です。私は今回のブラジルでの派遣事業をとおして、ブラジルにおいて日本語は日常生活において使う機会は多くは無く、日本語の捉え方も世代によって『継承語→外国語』というふうに変ってきているように感じました。これは日本での英語に近い状態だと思います。マリンガではまず、サンフランシスコ・ザビエル学校に行きました。生徒は2歳～16歳前後までが一緒にの校舎で学習して、日系人だけでなく、インターナショナルな学校でした。加古川市から寄贈された加古川マリンガ外国語センターでは、生徒がみんなで「かさじぞう」の劇を披露してくれました。日本語も流暢で分かりやすく、学年ごとにカスタネット・すず・ピアノ・笛で劇を盛り上げてくれました。母国語では無い日本語を一生懸命に使い自分たちを歓迎してくれたことに、感極まり泣きそうになりました。終了後、先生にインタビューしたところ、生徒はラテン系の気質があり自由で整列や号令に合わせるのが苦手で大変でした、と仰っていましたが、劇で一生懸命に整列する姿をみて、上手く日本文化が伝承されているように感じました。日本語の授業回数は、



週1～2回の学校が多いと聞きました。学生や成人の方が日本語をKUMONで学習するのも人気だそうです。日系人でも日本語を話せない人も多くいらっしゃると思いますが、私たちと交流して下さった方々は、継続的に努力をし、日本語を話して下さっているのだと感じました。最近では、日本のアニメや漫画が人気で、日系人で無い方も日本語を話す人が増えてきているという事を聞き、とても有難いことだと思いました。



今回の派遣では、日本語を話せる方に付き添って頂き、まるで日本を旅行しているかのように、何一つ苦労する事無く過ごせました。その中でも3日目のサンパウロから9日目のイグアスまで同行して下さり、またホストファミリーとして私を受け入れて下さった植田さんの家族には、感謝でいっぱいです。植田家は、ご夫婦（日系2世）と娘さん、お隣にはご両親が住んでおり1世から3世を通して交流することが出来ました。連日のハードスケジュールの中、ブラジル料理を作りたいという私の希望を叶えるためにホストマザーと夜中に一緒にお料理を作ったことはとても良い思い出になりました。また、植田家は加古川市とマリ

リング市の交流において非常に尽力されており、今回の派遣事業の様々な段取りや通訳、司会をされている姿は国際交流に携わる人間として心に響くものがありました。

第28回加古川市青年海外派遣事業を通して、加古川市のマリリング市との交流は、観光旅行では知ることのできない現地の方々との絆を感じることが出来る良い経験になりました。地図で見る日本は小さいけれど、日本は世界に及ばず影響力が大きく、テクノロジーが優れてとても魅力のある国だということをブラジルの方々から教えてもらいました。私自身、もう少し自信を持って国際交流に携わって多くの文化に接し、様々な価値観を学んでいきたいと思いました。

最後に私たちを温かく迎えて下さったブラジルの方々、加古川市国際交流協会の皆様、今回の青年海外派遣事業に関わる全ての方々に感謝申し上げます。Muito Obrigada!



派遣研修の記録

★サンパウロ★



サンパウロのニッケイパレスホテルにて



日本人移民史料館を見学



東洋人街（大阪橋）にて



リベルターデ日本広場にて

★アラカジュ★



セルジェペ州アラカジュ空港に到着



ブラジルパラバレーボール協会訪問

★アラカジュ★



ブラジル北東部の民族衣装と



ブラジル北東部の郷土料理



シットイングバレーを見学



バレーの練習をする学生の皆さんとともに



クロア・ド・ゴレの浅瀬



セルジェペ州スポーツ局長訪問

★アラカジュ★

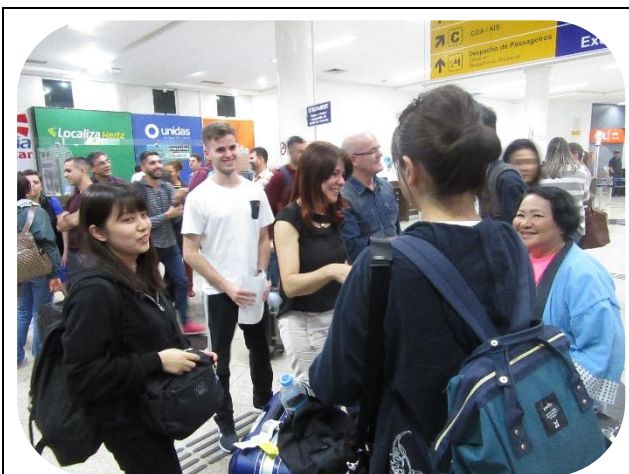


ブラジル連邦政府教育機構訪問



ウミガメを卵から育てるタマルプロジェクト

★マリンガ★



姉妹都市マリンガに到着、ホストファミリーと



サンフランシスコ・ザビエル学校



ウニセズマル大学訪問



大学の食堂にて、ケーキのおもてなし

★マリンガ★



マリンガ市制70周年記念碑



加古川マリンガ外国語センター訪問



マリンガ市議会訪問



マリンガ市役所前にて先住民の踊り



マリンガ市役所訪問



パラナ老人福祉和順会訪問

★マリンガ★



日本文化祭会場



歓迎夕食会



日本庭園訪問



乗馬体験



駒込農場にて



ホストファミリーとのお別れパーティ

★イグアス★



イグアスの滝に到着



アルゼンチン側から見たイグアスの滝

★リオデジャネイロ★



微かに見えるキリスト像



マラカナンサッカースタジアムにて



「幻想図書館」にて



ポンジアスーカル（砂糖パンの丘）にて

加古川市委託事業

公益財団法人 加古川市国際交流協会

〒675-0017 兵庫県加古川市野口町良野 3 8 7 - 1

TEL : 0 7 9 - 4 2 5 - 1 1 6 6

FAX : 0 7 9 - 4 2 5 - 0 2 0 0
